

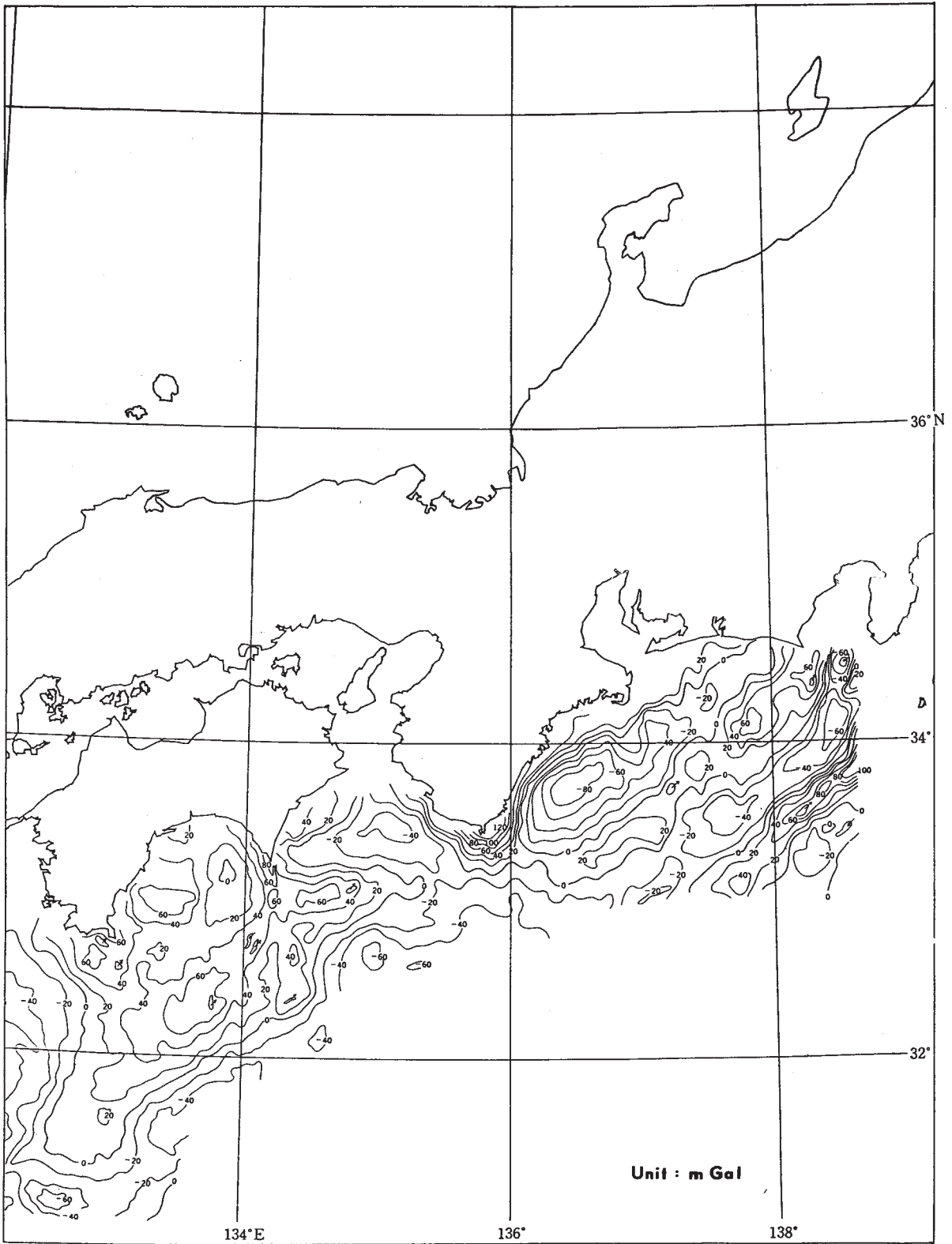
4 - 18 東海地方沖のフリーエア重力異常 Free-air Gravity Anomaly at the Offing of Tokai District

海上保安庁水路部
Hydrographic Department, Maritime Safety Agency

図は四国沖（1973年）および紀伊・東海沖（1980年）における、水路部測量船昭洋による海上重力測定の結果をもとにして描いたフリーエア重力異常図である。コンター間隔は20mGalとした。用いられた重力計は、ストリングタイプのT. S. S. G型海上重力計である。重力値の基準港は、東京、清水、および高知である。測線間隔は、四国沖：2マイル、紀伊・東海沖：4マイルである。

南海トラフに沿って負の重力異常が見られ、御前崎沖においては-60 mGalに達している。この負異常は、北は駿河湾から陸部の富士川に沿う地域まで、南は紀伊半島沖、四国沖を経て南西諸島海溝につながっている。南海トラフと平行に正および負の重力異常帯が走っており、この帯状構造は地形の同様な構造とも対応している。熊野灘においては-80 mGalに達する負異常となっている。潮岬周辺は+120 mGalに達する正の重力異常が海側にも及んでいる。紀伊水道沖には、南海トラフにつながる-40 mGalの負異常域が存在している。

（我如古康弘）



第1図 東海地方沖のフリーエア重力異常

Fig. 1 Free-air gravity anomaly at the offing of Tokai district. Contour interval: 20 mGal.